

2. ファクトブック:「特徴データ」

【社会との共創】

は定性的指標

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	取りまとめ担当 取組関係課
<p>中期目標(1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、地域医療の向上、文化・教育の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。</p>	<p>中期計画(1)-1 地域に科学技術イノベーションを創出するとともに、具体的な事業化戦略を地域産学官金で共有、協働して社会実装に挑み、複数の実践、成功事例に関する情報蓄積、その効果的な発信を行い、地域の様々な企業や団体との連携のもとでコトづくりとモノづくりを連動させた新たな価値創造への取組を推進し、地域の持続的発展に貢献する。</p> <p>研究推進課</p>	<p>(1)-1-A 地域イノベーション関与指数 地域イノベーション関与指数(※)：第3期(235)より増加(第4期の平均) ※ 地域イノベーション関与指数は、地域企業等との共同研究契約件数+地域の諸機関との共同研究件数+地域活性化のための公営研究の実施件数+地域イノベーション対話参加件数+技術相談件数×0.1(重み係数)+保有する特許のうち収入をもたらした件数×2(重み係数)とする。重み係数は、第3期の実績を積算・精査し、要素間の比率を参考に決定した</p> <p>研究推進課</p>	<p>地域イノベーション関与指数</p>	<p>基準値:235 対象期間:1H28~R2の平均</p>	<p>目標値:基準値以上 対象期間:R4~R9の平均</p>	<p>研究推進課</p>
	<p>中期計画(1)-2 福井県内で地域振興が最も切望されている嶺南地域の課題解決を目指し、大学の人材養成機能や研究成果を活用した社会共創の場として、福井県の嶺南地域に地域共創拠点(嶺南地域共創センター(仮称))を設置する。嶺南地域共創センターでは、ステークホルダーと協働し、全学が一丸となって、嶺南地域の地域課題に取り組みプロジェクトを立ち上げ、地域振興を進める。</p> <p>経営戦略課</p>	<p>(1)-2-A 令和5年度までに福井県、嶺南自治体等と連携して、人員を配置した地域共創拠点(嶺南地域共創センター)を設置</p> <p>経営戦略課</p>	<p>地域共創拠点(嶺南地域共創センター) (R4設置予定)</p>	<p>基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値:福井県、嶺南自治体等と連携して、人員を配置した当該拠点の設置 対象期間:R4~R5の間</p>	<p>経営戦略課</p>
		<p>(1)-2-B ステークホルダーのニーズに応えた嶺南地域の課題解決に向けたプロジェクト(定義) ・嶺南地域で実施するプロジェクト</p> <p>地域連携推進課</p>	<p>ステークホルダーのニーズに応えた嶺南地域の課題解決に向けたプロジェクト(定義) ・嶺南地域で実施するプロジェクト</p>	<p>基準値:- (参考) 第3期実績値:約10件 対象期間:-</p>	<p>目標値:30件以上 対象期間:R4~R9の合計</p>	<p>地域連携推進課</p>
		<p>(1)-2-C 相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額：第3期(9,129千円)より増加(第4期の合計)</p> <p>地域連携推進課</p>	<p>相手先を福井県、嶺南自治体等とする共同研究、受託研究及び受託事業の受入金額：第3期(9,129千円)より増加(第4期の合計)</p>	<p>基準値:9,129千円 対象期間:1H28~R2の合計</p>	<p>目標値:基準値以上 対象期間:R4~R9の合計</p>	<p>地域連携推進課</p>
	<p>中期計画(1)-3 総合診療・総合内科医や感染症専門医等の幅広い視点を持つ人材育成、地域医療推進体制の構築、健康のまちづくりを目指し、総合的な診療能力を持つ医師の養成事業、地域臨床研修システムの活性化、地域イノベーションセンターの設立、プレホスピタル救急・感染症医療の連携強化、感染症専門医の育成プログラムの実施等を地方自治体とともに推進して、高齢者に寛容で、感染症に強い、安全で安心な全人的地域医療を実現する。</p> <p>松岡キャンパス運営管理課</p>	<p>(1)-3-A 地域医療を指導できる総合診療・総合内科医の輩出人数：12名以上(第4期の合計)</p> <p>松岡キャンパス運営管理課</p>	<p>令和2年度に開設した医学部総合診療・総合内科センターにおける総合診療・総合内科医育成コースの専門医 General道場の研修を修了した者</p>	<p>基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値:12名以上 対象期間:R4~R9の合計</p>	<p>松岡キャンパス運営管理課</p>
		<p>(1)-3-B 感染症専門医の輩出人数：6名以上(第4期の合計)</p> <p>松岡キャンパス運営管理課</p>	<p>本学で育成・輩出した感染症専門医数</p>	<p>基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値:6名以上 対象期間:R4~R9の合計</p>	<p>松岡キャンパス運営管理課</p>
		<p>(1)-3-C 「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットの開催回数：1回(第4期の毎年度) / 当該サミット参加自治体数：延べ180程度(第4期の合計)</p> <p>松岡キャンパス運営管理課</p>	<p>①「健康のまちづくり友好都市連盟」サミットの開催回数 ②当該サミット参加自治体数</p>	<p>基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値: ①1回 ②延べ180自治体 対象期間: ①R4~R9の毎年度 ②R4~R9の合計</p>	<p>松岡キャンパス運営管理課</p>
	<p>中期計画(1)-4 現代社会が求める知識・技能を必要に応じてタイミングよく持続的に学ぶことのできる母港型学びの枠組み構築を目指し、地域の発展を支える専門職の生涯にわたる職能成長を支えるリカレント教育や、地域が求めるリカレント教育を整備することにより、ステークホルダーのニーズに対応するリカレントプログラムを構築する。</p>	<p>(1)-4-A 令和9年度までに「未来協働プラットフォームふくい(※)」等での議論に基づきリカレントプログラムを複数実施 ※ 福井県版地域連携プラットフォーム。</p> <p>地域連携推進課</p>	<p>「未来協働プラットフォームふくい」における「学生/社会人教育部会」等での議論に基づき実施したリカレントプログラム数</p>	<p>基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値:2件以上 対象期間:R4~R9の合計</p>	<p>地域連携推進課</p>

【教育】

は定性的指標

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	取りまとめ担当 取組関係課
中期目標(2) 学生の能力が社会でどのように評価されているのか、調査、分析、検証をした上で、教育課程、入学者選抜の改善に繋げる。特に入学者選抜に関しては、学生に求める意欲・能力を明確にした上で、高等学校等で育成した能力を多面的・総合的に評価する。	中期計画(2)-1 社会から求められる高い能力を有する卓越高度専門職業人の輩出を目指し、全学的な教育内部質保証体制のもと、ステークホルダーに対する意見聴取の在り方を見直し、学修成果・教育成果をより精確に把握する仕組みを構築するとともに、教学IRを整備・活用し、輩出した人材が社会で求められる能力を身に付けているか調査・分析し、その結果を踏まえ、3ポリシーの見直しを含む教育課程や入学者選抜の改善を行う。	(2)-1-A 各学部・各学部の養成人材像を踏まえた調査・分析（第4期の毎年度） 教務課	各学部の養成人材像を踏まえた調査・分析	基準値:- 対象期間:-	目標値:実施 対象期間:R4～R9の毎年度	総務課
		(2)-1-B 就職率:高い水準(概ね96%前後)を維持(第4期の平均) キャリア支援課	就職率(定義)・全学部・研究科における就職率の平均	基準値:概ね96%前後 対象期間:H28～R2の平均(実績値:97.8%)	目標値:基準値を維持 対象期間:R4～R9の平均	キャリア支援課
	中期計画(2)-2 多様な背景を有する学生の一層の獲得を目指し、多面的・総合的に評価する「探究活動」の基盤となる、新学習指導要領で重視される「探究活動」の実践による主体的・対話的で深い学びを育む高大接続教育(高等学校における探究活動の支援、大学における探究プロジェクトの開催など)を拡大する。	(2)-2-A 高等学校における探究活動の支援回数:46回以上(第4期の最終年度) 入試課	高等学校における探究活動の支援回数	基準値:- 対象期間:-	目標値:46回以上 対象期間:R9(単年度)	入試課
		(2)-2-B 大学における探究プロジェクト開催回数:16回以上(第4期の最終年度) 入試課	学内における探究プロジェクトの開催回数	基準値:- (参考) 第3期実績値:11.8回 対象期間:-	目標値:16回以上 対象期間:R9(単年度)	入試課
	中期計画(2)-3 社会に求められる人材の多数輩出を目指し、就職先等から高く評価されている就職支援体制を基盤として、キャリア教育を一層充実するとともに、就職支援を一層推進し、高い就職率を維持する。	(2)-3-A 就職率:高い水準(概ね96%前後)を維持(第4期の平均)(再掲) キャリア支援課	就職率(定義)・全学部・研究科における就職率の平均	基準値:概ね96%前後 対象期間:H28～R2の平均(実績値:97.8%)	目標値:基準値を維持 対象期間:R4～R9の平均	キャリア支援課
中期目標(3) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)	中期計画(3)-1 卓越高度専門職業人の育成を目指し、各学部の特色に応じた数理・データサイエンス・AI分野の教育を推進し、内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が連携し奨励している数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の認定を取得する。また、認定取得した教育プログラムを普及させる。	(3)-1-A 令和5年度までに数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)の認定を取得 教務課	数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)の認定取得	基準値:- 対象期間:-	目標値:認定取得 対象期間:R4～R5の間中	総務課
		(3)-1-B 認定取得した教育プログラム履修者数:200名以上(第4期の最終年度) 教務課	認定取得した教育プログラム履修者数	基準値:- 対象期間:-	目標値:200名以上 対象期間:R9(単年度)	教務課
	中期計画(3)-2 自ら考え、主体的に行動し、責任をもって社会変革を実現できると同時に、職種の違いを越えて包括的に課題に対処できる資質・能力を持った卓越高度専門職業人を養成するため、主体的課題探求・解決型の手法を用いた多様な学修形態を導入・発展させるとともに、多職種連携教育を含む学部等連携教育を推進する。	(3)-2-A 令和9年度までに課題解決型、若しくは価値創造型PBLを実装する多職種連携教育(4学部)で構築・実施 経営戦略課	課題解決型、若しくは価値創造型PBLを実装する多職種連携教育	基準値:- (参考) 第3期は医学部のみ実施 対象期間:-	目標値:全ての学部(4学部)で構築・実施 対象期間:R4～R9の間中	経営戦略課
		(3)-2-B 多職種連携教育科目数:第3期(6科目)より増加(第4期の合計) 経営戦略課	多職種連携教育科目数	基準値:6科目 対象期間:H28～R3の合計	目標値:基準値以上 対象期間:R4～R9の合計	経営戦略課

<p>中期目標 (4) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(博士前期課程)</p>	<p>中期計画 (4)-1 将来の産業構造の変革に対応できる人材へのニーズを踏まえ令和2年4月に改組した工学研究科博士前期課程において、スペシャリストとジェネラリストの能力・資質を兼ね備えた高度専門技術者の輩出を一層進めることを目指し、教学マネジメントのもと、ステークホルダーの参画も得て人材育成状況を検証し、分野横断型カリキュラムの質を向上させる。 工学部運営管理課</p>	<p>(4)-1-A 工学研究科博士前期課程の教育プログラムについて毎年度モニタリングを行うとともに令和9年度までにレビューを実施 工学部運営管理課</p>	<p>工学研究科博士前期課程の教育プログラム 基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値: ①モニタリング ②レビューの実施 対象期間: ①R4～R9の毎年度 ②R4～R9の期間中</p>	<p>工学系運営管理課</p>
		<p>(4)-1-B 修了までに必修以外の工学研究科共通科目を履修した学生数(工学研究科博士前期課程(改組後))：第3期(125名)より20%以上増加(第4期の平均) 工学部運営管理課</p>	<p>修了までに必修以外の工学研究科共通科目を履修した学生数(工学研究科博士前期課程(改組後)) 基準値:125名 ※R2入学者がR2～R3で当該授業を履修登録した者の数 対象期間:R2～R3の合計</p>	<p>目標値:基準値の20%以上(150名以上) 対象期間:R4～R9の平均</p>	<p>工学系運営管理課</p>
		<p>(4)-1-C 工学研究科博士前期課程修了生の就職率 工学部運営管理課</p>	<p>工学研究科博士前期課程修了生の就職率 基準値:概ね96%前後 対象期間:H28～R2の平均(実績値:99.2%)</p>	<p>目標値:基準値を維持 対象期間:R4～R9の平均</p>	<p>工学系運営管理課</p>
	<p>中期計画 (4)-2 教養キャンパスへの原子力人材教育資源の集約に基づく学士課程から博士前期課程までの一貫した教育プログラムを基盤として、試験研究が開始・次世代同開発・原子力防災等原子力安全工学に係る実践力を備えた専門人材の一層の輩出を目指し、国内外の大学・研究機関等との連携(共同)を強化するとともに、県内原子力施設における実践的トレーニングの機会を充実させ、本学ならではの原子力安全工学教育プログラム(福井モデル)を活用して、多くの原子力発電所が立地する県の特性を生かした質の高い教育を実施する。 教養キャンパス運営管理課</p>	<p>(4)-2-A 他大学や機関と連携して行う原子力安全工学教育メニューの実施回数：第3期(38回)より増加(第4期の合計) 教養キャンパス運営管理課</p>	<p>他大学や機関と連携して行う原子力安全工学教育メニューの実施回数 基準値:38回 対象期間:H28～R3の合計</p>	<p>目標値:基準値以上 対象期間:R4～R9の合計</p>	<p>教養キャンパス運営管理課</p>
		<p>(4)-2-B 原子力関連分野への就職者数：高い水準(52人以上)を維持(第4期の合計) 教養キャンパス運営管理課</p>	<p>原子力関連分野への就職者数 基準値:52人 対象期間:H28～R2の合計</p>	<p>目標値:基準値を維持 対象期間:R4～R9の合計</p>	<p>教養キャンパス運営管理課</p>
<p>中期目標 (5) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程、学士(専門職)課程)</p>	<p>中期計画 (5)-1 教職大学院において、新学習指導要領・「令和の日本型教育」・OECD Education2030で示されている学習者主体の学び、「主体的、対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学び」への転換を主導する教師の実践力形成とその基盤となる協働実践組織の実現を目指し、学校拠点のPBL(Project-Based Learning)を中心とする教職大学院のカリキュラムデザインとそれを支える評価・組織の高度化と拡大を進め、地域における学校の改革を牽引する中核的教員の実践力形成と改革の持続的展開を実現するとともに、その教師教育カリキュラムの実践モデルの実現を通して教師教育改革の展開をリードする役割を果たす。 人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>(5)-1-A 大学院教師教育・教員養成カリキュラムにおける長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目割合：90%以上(第4期の最終年度) 人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>大学院教師教育・教員養成カリキュラムにおける長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目割合 基準値:- (参考) 第3期実績値:77% 対象期間:-</p>	<p>目標値:90%以上 対象期間:R9(単年度)</p>	<p>人文社会系運営管理課(教育)</p>
		<p>(5)-1-B 長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目における大学院生の学習(能力)評価に参画する立場の異なるステークホルダー数：6名以上(当人を含む)(第4期の最終年度) 人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の授業科目における大学院生の学習(能力)評価に参画する立場の異なるステークホルダー数 基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値:6名以上(当人を含む) 対象期間:R9(単年度)</p>	<p>人文社会系運営管理課(教育)</p>
		<p>(5)-1-C 「理論と実践の往還」及び長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の展開の視点から、すべての科目(授業科目・研修科目)が有機的に編成されたカリキュラムを実施する拠点数(連携大学・自治体)：5拠点以上(第4期の最終年度) 人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>「理論と実践の往還」及び長期的で組織的な学校拠点のプロジェクト学習の展開の視点から、すべての科目(授業科目・研修科目)が有機的に編成されたカリキュラムを実施する拠点数(連携大学・自治体) 基準値:- (参考) 第3期実績値:3拠点 対象期間:-</p>	<p>目標値:5拠点以上 対象期間:R9(単年度)</p>	<p>人文社会系運営管理課(教育)</p>
	<p>中期計画 (5)-2 社会人特別選抜を主とする国際地域マネジメント研究科において、広い視野と多様な知見を備え、複雑化する地域社会の求めに応えることができる卓越高度専門職業人の養成を目指し、大学院生の知識・技能の習得や資質・能力の育成機会の拡大を実現する。 人文社会系運営管理課(国際)</p>	<p>(5)-2-A 令和9年度までに産学官連携本部や地域共創拠点(嶺南地域共創センター)等の学内の他部局の施設を利用し、他の研究科・教職大学院等と協働して多職種連携した人材育成を行う仕組み(講義の相互乗り入れ、プロジェクトやラウンドテーブル参加等)を構築し、適宜改善を実施 人文社会系運営管理課(国際)</p>	<p>産学官連携本部や地域共創拠点(嶺南地域共創センター)等の学内の他部局の施設を利用し、他の研究科・教職大学院等と協働して多職種連携した人材育成を行う仕組み(講義の相互乗り入れ、プロジェクトやラウンドテーブル参加等) 基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値:構築・適宜改善 対象期間:R4～R9の期間中</p>	<p>人文社会系運営管理課(国際)</p>
		<p>(5)-2-B 海外事業所や海外展開する国内企業等との間でオンラインによるヒアリングや議論を行うプログラム件数：12件以上(第4期の合計) 人文社会系運営管理課(国際)</p>	<p>海外事業所や海外展開する国内企業等との間でオンラインによるヒアリングや議論を行うプログラム件数 基準値:- (参考) 第3期実績なし 対象期間:-</p>	<p>目標値:12件以上 対象期間:R4～R9の合計</p>	<p>人文社会系運営管理課(国際)</p>

中期目標(6) 医師や学校教員など、特定の職業に就く人材養成を目的とした課程において、当該職業分野で必要とされる資質・能力を意識し、教育課程を高度化することで、当該職業分野を先導し、中核となって活躍できる人材を養成する。	中期計画(6)-1 福井県をはじめとする学校教育現場で求められている卓越高度専門職業人としての教員を計画的に養成することを旨とし、教育学部・教職大学院・附属学園・総合教職開発本部の連携のもと、教育学部のカリキュラム改善や、インクルーシブ教育の推進など教員の力量形成に資する教育プログラム等の充実を通して、OECD Education2030段階に対応する教師教育改革を見据えた学習の高度化と地域のニーズへの対応の両者を実現する質の高い教育を実施する。 人文社会系運営管理課(教育)	(6)-1-A 令和9年度までに小学校・中学校9年間を見直し、児童・生徒主体の学びを担うことのできる教員を養成するカリキュラムや教育プログラムを整備・実施 人文社会系運営管理課(教育)	小学校・中学校9年間を見直し、児童・生徒主体の学びを担うことのできる教員を養成するカリキュラムや教育プログラム	基準値:- 対象期間:-	目標値:整備・実施 対象期間:R4~R9の期間中	人文社会系運営管理課(教育)	
		(6)-1-B 令和5年度までに特別支援学校2種免許取得プログラムを実施し、令和7年度までに複数免許取得プログラムの実装を完了 人文社会系運営管理課(教育)	①特別支援学校2種免許取得プログラム ②複数免許取得プログラム	基準値:- 対象期間:-	目標値:①②プログラムの実装 対象期間: ①R4~R5の期間中 ②R4~R7の期間中	人文社会系運営管理課(教育)	
		(6)-1-C 教育学部全体の特別支援学校教諭の免許状取得率:25%以上(第4期の最終年度) 人文社会系運営管理課(教育)	教育学部全体の特別支援学校教諭の免許状取得率	基準値:- (参考) 第3期平均予測値: 19.1%(教育学部) 対象期間:-	目標値:25%以上 対象期間:R9(単年度)	人文社会系運営管理課(教育)	
		中期計画(6)-2 第3期に導入したアウトカム基盤型教育の推進により、医学・看護学教育の全国的な基準とされる分野別評価の受審と、それぞれの教育プログラム(カリキュラム、教育課程)の更なる高度化を目指し、PDCAによるアウトカム・コンピテンシー及びカリキュラムの点検と改善を推進し、学生のアウトカム・コンピテンシー達成度を向上させる。 松岡キャンパス学務課	(6)-2-A 令和9年度までに医学・看護学教育の国際認証・分野別認証を取得 松岡キャンパス学務課	医学・看護学教育の国際認証・分野別認証	基準値:- 対象期間:-	基準値:認証取得 対象期間:R4~R9の期間中	松岡キャンパス学務課
			(6)-2-B 卒業時における学生の達成度自己評価において、「できる」「ある程度できる」と回答した学生の割合:初年度(医学科:令和5年度、看護学科:令和4年度)より増加(第4期の最終年度) 松岡キャンパス学務課	卒業時における学生の達成度自己評価において、「できる」「ある程度できる」と回答した学生の割合	基準値: (医学科)R5の数値 (看護学科)R4の数値 対象期間: (医学科)R5 (看護学科)R4	目標値:(医学科・看護学科)基準値以上 対象期間:R9(単年度)	松岡キャンパス学務課
		中期計画(6)-3 地域社会を幅広く診る能力を持った総合内科・総合診療医や看護師の育成、感染症に対する高度な知識・感染制御の基本的かつ重要な手技を身につけた医療人の養成を目指し、地域包括医療・ケアの実践・育成プログラムを開発すること等により病院、診療所のみならず、地域社会の総合診療の学びを推進すると共に、医学部・附属病院の連携による感染症教育を推進し、これからの地域医療や感染症医療を第一線で担える医師・看護師の養成を実現する。 松岡キャンパス学務課	(6)-3-A 地域医療、感染症教育に関する新たな取組件数:初年度より増加(第4期の最終年度) 松岡キャンパス学務課	地域医療、感染症教育に関する新たな取組件数	基準値:R4の数値(参考) 第3期実績なし 対象期間:R4	目標値:基準値以上 対象期間:R9(単年度)	松岡キャンパス学務課
		(6)-3-B 地域医療、感染症に関するコンピテンシー達成度(学生のアンケート結果):初年度より向上(第4期の最終年度) 松岡キャンパス学務課	地域医療、感染症に関するコンピテンシー達成度(学生のアンケート結果)	基準値:R4の数値 対象期間:R4	目標値:基準値以上 対象期間:R9(単年度)	松岡キャンパス学務課	
中期目標(7) 学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。	中期計画(7)-1 優秀な正規留学生をリクルートすること、正規留学生の満足度を高めることを目指し、優秀な留学生の受入・支援体制の整備、留学生への支援体制の整備及び留学生の満足度を総合的に評価する評価指標の構築を実現する。 国際課	(7)-1-A 正規留学生数:第3期の年平均(118名)より増加(第4期の最終年度) 国際課	正規留学生数	基準値:118名 対象期間:1H28~R3の平均値(各年度5月1日時点)	目標値:基準値以上 対象期間:R9(単年度)	国際課	
		(7)-1-B 正規留学生の満足度(正規留学生を対象としたアンケート):初年度より向上(第4期の最終年度) 国際課	正規留学生の満足度(正規留学生を対象としたアンケート)	基準値:R4の数値 対象期間:R4	目標値:基準値以上 対象期間:R9(単年度)	国際課	
	中期計画(7)-2 ポストコロナ時代に向けて、オンラインを含む多様な国際学修プログラムを構築すること、日本人学生が世界に貢献し得る英語運用能力と国際通用性を高めてグローバルに活躍する卓越高度専門職業人を育成することを目指し、国際学修の多様化、並びに国際通用性の評価、その評価結果を教育改善にフィードバックする体制の構築、その体制の中核となる語学センターを発展させたグローバル人材育成研究センター(仮称)の設置を実現する。 国際課	(7)-2-A 令和9年度までにグローバル人材育成研究センターを設置し、国際通用性を高める教育を実施 国際課	グローバル人材育成研究センター	基準値:- 対象期間:-	目標値:センターの設置 対象期間:R4~R9の期間中	国際課	
		(7)-2-B 英語による専門科目数:初年度より増加(第4期の最終年度) 国際課	英語による専門科目数	基準値:R4の数値 対象期間:R4	目標値:基準値以上 対象期間:R9(単年度)	国際課	
		(7)-2-C 令和4年度までに学生の国際通用性を評価するグローバル・コンピテンシー指標を構築/国際通用性を高める教育(海外留学等)の実施前後のグローバル・コンピテンシー指標:15%以上向上(第4期の平均) 国際課	①学生の国際通用性を評価するグローバル・コンピテンシー指標 ②国際通用性を高める教育(海外留学等)の実施前後のグローバル・コンピテンシー指標	基準値:- 対象期間:-	目標値: ①指標の構築 ②15%以上向上 対象期間: ①R4の期間中 ②R4~R9の平均	国際課	

<p>中期計画(7)-3 総合教職開発本部と連携しながら教職大学院をハブとした国際的な教師教育改革推進組織の確立とそれによる教育課程と教育内容の高度グローバル化を目指し、シンガポール国立教育研究所(NIE)協定に基づく交換留学に加えて、海外教員研修留学生の受入拡大、エジプト・日本教育パートナーシップ(EJEP)人材育成事業研修及び国際協力開発機構(JICA)課題別研修それぞれの受講生のネットワーク化と相互交流拡張、JICA草の根技術協力事業によるアフリカ地域を主とした教師学習コミュニティのネットワーク化、経済協力開発機構(OECD) Education 2030と連動したグローバル教育コンソーシアムの確立、これらを連合教職大学院の教育課程・教育内容と連動させた大学院レベルでのグローバル教育を実施する。</p> <p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>(7)-3-A 海外教員研修留学生及び研修受講生指数(※):300以上(第4期の平均) ※:海外教員研修留学生及び研修受講生指数は、海外教員研修留学生及び研修受講生数の総数に出身国(地域)の数を乗じて算出する。</p> <p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>海外教員研修留学生及び研修受講生指数 ※:海外教員研修留学生及び研修受講生指数=$\frac{\text{海外教員研修留学生及び研修受講生数の総数}}{\text{出身国(地域)数}}$</p>	<p>基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値:300以上 対象期間:R4~R9の平均</p>	<p>人文社会系運営管理課(教育)</p>
<p>(7)-3-B 令和9年度までに海外教員研修留学生と大学院生が協働学習を行う授業を整備・実施</p> <p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>海外教員研修留学生と大学院生が協働学習を行う授業</p>	<p>基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値:整備・実施 対象期間:R4~R9の間中</p>	<p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>人文社会系運営管理課(教育)</p>
<p>(7)-3-C 海外教員研修留学生及び研修受講生による「長期実践研究報告」において、研修について良好な評価(上方3/5以上)を行った留学生・研修生の割合:60%以上(該当人数/全体人数)(第4期の平均)</p> <p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>海外教員研修留学生及び研修受講生による「長期実践研究報告」において、研修について良好な評価(上方3/5以上)を行った留学生・研修生の割合</p>	<p>基準値:- 対象期間:-</p>	<p>目標値:60%以上(該当人数/全体人数) 対象期間:R4~R9の平均</p>	<p>人文社会系運営管理課(教育)</p>	<p>人文社会系運営管理課(教育)</p>

【研究】

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	取りまとめ担当 取組関係課	
中期目標(8) 地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。	中期計画(8)-1 コア技術である高出力遠赤外光源及び遠赤外領域計測技術の更なる先進化と分野融合型の共同研究開発を推進するため、社会問題解決につながる技術のイノベーションを目指し、第3期において実施した遠赤外領域の公募型国内共同研究を継続しつつ、新分野開拓及び分野融合研究を行うとともに、遠赤外領域における国際連携研究ネットワークを拡大・強化する。	(8)-1-A 遠赤外領域研究に関する国内・国際共同研究の新規実施件数 第3期(206件)より10%以上増加(第4期の合計) 研究推進課	遠赤外領域研究に関する国内・国際共同研究の新規実施件数	基準値:206件 対象期間:1:H28~R2の平均値×6年間分	目標値:基準値より10%以上増加(227件以上) 対象期間:R4~R9の合計	研究推進課	
	中期計画(8)-2 「安全と共生」を基本として設置された附属国際原子力工学研究所を中心とした国際・国内研究拠点の形成・充実を目指し、基礎から実践までの幅広い研究を一層実施していくとともに、もんじゅ跡地に建設予定の試験研究がの利活用によるイノベーション研究を進める体制を構築する。 敦賀キャンパス運営管理課	(8)-2-A Science Citation Index (SCI) 論文数 (SCI) (※) 論文数: 第3期(130件)の水準を維持(第4期の合計) ※ 科学技術分野における文献間の引用情報に関する索引(引用索引)。 敦賀キャンパス運営管理課	(8)-2-B ①試験研究の研究分野に係るセミナー等の開催回数 ②同研究分野の連携協定数 (第4期の毎年度) / 同研究分野の連携協定数: 3件以上(第4期の合計) 敦賀キャンパス運営管理課	Science Citation Index (SCI) 論文数	基準値:130件 対象期間:※第3期【戦略2】の目標値(評価指標)。H28~R2実績値は129件。 基準値:- 対象期間:-	目標値:基準値を維持 対象期間:R4~R9の合計 目標値:①2回以上 ②3件以上 対象期間:①R4~R9の毎年度 ②R4~R9の合計	敦賀キャンパス運営管理課 敦賀キャンパス運営管理課
	中期計画(8)-3 本邦初の分子イメージング部門を擁し、世界最先端画像医学研究拠点の一つである高エネルギー医学研究センターを中心に、第3期までに脳科学や分子イメージングとして培った画像医学研究分野の成果を、未開の研究分野へと展開することを目指し、脳病態やがん研究に関連する分子プローブ技術や最先端マルチモダリティ機能画像法等の卓越した画像研究基盤を、これまでに実績のある子どものこころの発達研究センター等に加え多彩な医学研究分野に応用し、世界水準の研究を実施する。	(8)-3-A 病態画像研究に関する学術誌への英文論文掲載数 (160件)より増加(第4期の合計) 松岡キャンパス研究推進課	病態画像研究に関する学術誌への英文論文掲載数	基準値:160件 対象期間:1:H28~R2平均値×6年間分	目標値:基準値以上 対象期間:R4~R9の合計	松岡キャンパス研究推進課	
	中期計画(8)-4 繊維・機能性材料に関する先端的研究を始めとする地域ニーズ駆動による製品化を起点とし、実証化及びカスタム化と続くイノベーションサイクルを地域産官金が連携して迅速に回す新たな仕組みの構築を目指し、化学、光学、エレクトロニクス、情報科学、機械・制御工学、建築・建設工学、応用物理学等の多様な研究者と、繊維を始めとする地域の産業界及びファイナンス・起業に関する人材による分野横断型チームによる地域産業の発展に資する協働研究と成果の迅速な社会実装を推進し、地域と密接に連携した持続的なイノベーションエコシステムを創出する。	(8)-4-A 地域イノベーション創出指数(※): 第3期(176)より増加(第4期の平均) ※ 地域イノベーション創出指数は、産業化研究特区等の研究センター活動への参画研究者数+特許出願数+特許権実施等件数。 研究推進課	地域イノベーション創出指数	基準値:176 対象期間:1:H28~R2の平均値	目標値:基準値以上 対象期間:R4~R9の合計	研究推進課	
	中期計画(8)-5 がん、神経、免疫・アレルギー、炎症性疾患等の先進的・実践的な医学研究に基づいた新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指し、各分野の根幹をなす、発がん・転移に関わる分子細胞学的研究と臨床応用、分子から個体レベルの神経科学研究の展開と脳神経疾患研究との融合、アレルギー・炎症性疾患の分子病態研究と新規治療法の開発等に注力するとともに、超高齢化社会に対応する地域医療研究との相補的発展を実現する。 松岡キャンパス研究推進課	(8)-5-A 当該分野における学術誌への英文論文掲載数 (1,756件)より増加(第4期の合計) 松岡キャンパス研究推進課	(8)-5-B 当該分野における研究成果の具体化件数 (定義) 以下の合計件数 ・特許出願数 ・特許の権利化件数	当該分野における学術誌への英文論文掲載数	基準値:1,756件 対象期間:1:H28~R2平均値×6年間分 基準値:92件 対象期間:1:H28~R2平均値×6年間分	目標値:基準値以上 対象期間:R4~R9の合計 目標値:基準値以上 対象期間:R4~R9の合計	松岡キャンパス研究推進課 松岡キャンパス研究推進課

【その他】

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	取りまとめ担当 取組関係課		
中期目標(9) 学部・研究科等と連携し、実践的な実習・研修の場を提供するとともに、全国あるいは地域における先導的な教育モデルを開発し、その成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。(附属学校)	中期計画(9)-1 新学習指導要領・「令和の日本型教育」・OECD Education2030が示す学習者主体の学びと、現代社会が求めるダイバーシティ対応能力の育成を実現すべく、令和4年度に義務教育学校と幼稚園で、発達障害児の特別入学枠を設置した上で、インクルージョンの取組として位置付けたPBL(Project-Based Learning)とインクルージョンとが融合した先導的な教育モデルの開発研究を行うとともに、教育学部・教職大学院と連携した教員研修機能の強化・充実を目指す。 人文社会系運営管理課(教育)	(9)-1-A 義務教育学校における発達障害児を含めたPBLの実施時間数 ①義務教育学校における発達障害児を含めたPBLの実施時間数 ②幼稚園における発達障害児を含めた「PBLに繋がる遊びの時間」数 人文社会系運営管理課(教育)	①義務教育学校における発達障害児を含めたPBLの実施時間数 ②幼稚園における発達障害児を含めた「PBLに繋がる遊びの時間」数	基準値:- 対象期間:-	目標値:①-1 100時間以上(前期課程) ①-2 70時間以上(後期課程) ②150時間以上 対象期間:①②R4~R9の毎年度	人文社会系運営管理課(教育)		
		(9)-1-B 教育学部・教職大学院・医療等との連携件数:第3期(138件)より20%以上増加(第4期の合計) 人文社会系運営管理課(教育)	「保護者を交えた支援会議」の実施件数(R2より開始) 基準値:138件 対象期間:R2平均値×6年間分	基準値:138件 対象期間:R2平均値×6年間分	目標値:基準値より20%増加 対象期間:R4~R9の合計	人文社会系運営管理課(教育)		
		(9)-1-C 附属学園に所属する教員の教職大学院への進学者数:第3期(18名)より増加(第4期の合計) 人文社会系運営管理課(教育)	附属学園に所属する教員の教職大学院への進学者数 基準値:18名 対象期間:H28~R3の合計	基準値:18名 対象期間:H28~R3の合計	目標値:基準値以上 対象期間:R4~R9の合計	人文社会系運営管理課(教育)		
中期目標(10) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となつて活躍できる医療人を養成する。(附属病院)	中期計画(10)-1 医学系分野において研究関係者のリテラシー向上によって透明性の確保された高度で質の高い医学研究の遂行と新規医療技術の研究開発を目指し、特定機能病院の責務として研究者自身が倫理性及び科学的合理性を主体的に修学・習得するための定期的な講習会開催や相談・支援体制の整備を行う。 松岡キャンパス研究推進課	(10)-1-A 研究者等を対象とした多様なテーマによる臨床研究に関するセミナー・講習会及び研究デザイン設計を含む総合的な統計相談件数:各12回以上(第4期の毎年度) 松岡キャンパス研究推進課	①研究者等を対象とした多様なテーマによる臨床研究に関するセミナー・講習会及び研究デザイン設計を含む総合的な統計相談件数 ②研究デザイン設計を含む総合的な統計相談件数	基準値:- 対象期間:-	目標値:①12回以上 ②12回以上 対象期間:①②R4~R9の毎年度	松岡キャンパス研究推進課		
		(10)-2-A シミュレーターを活用した臨床研修の実施回数 経営企画課	シミュレーターを活用した臨床研修の実施回数:30回以上(第4期の毎年度) 経営企画課	基準値:- 対象期間:-	目標値:30回以上 対象期間:R4~R9の毎年度	経営企画課		
		(10)-2-B 卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラムを実施する。 経営企画課	卒前教育・卒後教育を一体化し、臨床実技とシミュレーショントレーニングを組み合わせた教育・研修プログラム数:3回以上(第4期の毎年度) 経営企画課	基準値:- 対象期間:-	目標値:3回以上 対象期間:R4~R9の毎年度	経営企画課		
		中期計画(10)-3 特定機能病院に求められる、保険診療への発展を視野に入れた先端医療を開発し、適正に評価して広く地域へ提供するという一連プロセスの更なる活性化を目指し、これまでの取組において特に研究成果が蓄積している、難治がんの病態分析に基づいた集学的な進展制御法の開発、炎症・アレルギー疾患の病因解析に立脚した分子標的治療への応用、循環器・脳神経疾患等に対する分子生物学的な予防・早期診断法の開発と治療応用を加速し、更に新たな取組として、高度な不妊治療を実施できる福井県完結型の中核施設を設置、がん・遺伝診療に対する診療体制の拡充を実現する。 松岡キャンパス研究推進課	(10)-3-A 臨床研究の新規実施件数:第3期(1,205件)より増加(第4期の合計) 松岡キャンパス研究推進課	臨床研究の新規実施件数 基準値:1,205件 対象期間:H28~R2の平均値×6年間分	①がん遺伝子パネル検査件数 ②遺伝カウンセリング件数	基準値:1,205件 対象期間:H28~R2の平均値×6年間分	目標値:基準値以上 対象期間:R4~R9の合計	松岡キャンパス研究推進課
		(10)-3-B 不妊治療施設(新施設)の治療件数:初年度より増加(第4期の最終年度) 経営企画課	不妊治療施設(新施設)の治療件数 基準値:R4の数値 対象期間:R4	基準値:R4の数値 対象期間:R4	目標値:基準値以上 対象期間:R9(単年度)	経営企画課		
(10)-3-C がん遺伝子パネル検査件数:50件以上(第4期の合計) / 遺伝カウンセリング件数:40件以上(同) 経営企画課	①がん遺伝子パネル検査件数 ②遺伝カウンセリング件数 基準値:- 対象期間:-	①がん遺伝子パネル検査件数:50件以上(第4期の合計) / 遺伝カウンセリング件数:40件以上(同) 基準値:- 対象期間:-	①がん遺伝子パネル検査件数 ②遺伝カウンセリング件数	基準値:- 対象期間:-	目標値:①50件以上 ②40件以上 対象期間:①②R4~R9の合計	経営企画課		

【業務運営】

は定性的指標

中期目標	中期計画	評価指標	評価指標の定義	基準値	目標値	取りまとめ担当 取組関係課
中期目標 (11) 内部統制機能を 実質化させるた めの措置や外部 の知見を法人経 営に生かすため の仕組みの構 築、学内外の専 門的知見を有す る者の法人経営 への参画の推進 等により、学長 のリーダーシッ プのもとで、強 靱なガバナンス 体制を構築す る。	中期計画 (11)-1 学長のリーダーシップのもと で学内の教育研究リソースを 最大限活用できる体制を目指 し、教職協働によるプロジェ クト型での業務遂行を強化す る。	(11)-1-A 教職協働によるプロジェクト件 数 対象期間：- (第4期の合計)	教職協働によるプロジェクト 件数	基準値：- 対象期間：-	目標値：10件以上 対象期間：R4～R9の合 計	経営戦略課
	中期計画 (11)-2 最適な大学運営の構築を目指 し、組織として恒常的に大学 運営を確認できる仕組みの整 備及び運用を行い、内部統制 機能を強化する。	(11)-2-A 組織的な「内部統制システムの 整備及び運用に関するモニタ リング」を実施 (第4期の毎年 度)	組織的な「内部統制システムの 整備及び運用に関するモニタ リング」	組織的な「内部統制システムの 整備及び運用に関するモニタ リング」	基準値：- 対象期間：-	目標値：実施 対象期間：R4～R9の毎 年年度
中期目標 (12) 大学の機能を最 大限発揮するた めの基盤となる 施設及び設備に ついて、保有資 産を最大限活用 するとともに、 全学的なマネジ メントによる戦 略的な整備・共 用を進め、地 域・社会・世界 に一層貢献して いくための機能 強化を図る。	中期計画 (12)-1 共用設備の整備・更新、共用 化を促進する仕組み (コア ファンクティ化) の強化を目指 し、共用設備の整備運用方 針に基づき、戦略的に共用設 備の導入・更新を進めると ともに、設備共用方針等の学 内外への周知強化を推進し、 共用設備の使用件数を第3期 より増加させる。	(12)-1-A 共用設備の使用件数：第3期 (52,639件) より増加 (第4期 の合計)	共用設備の使用件数	基準値：52,639件(文 京：27,348件)(松岡： 25,291件) 対象期間：H28～R2平 均値×6年間分	目標値：基準値以上 対象期間：R4～R9の合 計	研究推進課
	中期計画 (12)-2 教育・研究の環境改善と温室 効果ガスの総排出量削減を目 指し、引き続き、全学的なマ ネジメントによるエネルギー 消費量の低減に取り組み、戦 略的な施設整備・運用を推進 し、エネルギー消費原単位を 削減する。	(12)-2-A エネルギー消費原単位値 (原 油換算値) の削減割合 エネルギー消費原単位値 (原 油換算値) の削減割合：第3期 の年平均 (0.04034kl/m ³) より 5%以上 (第4期の最終年度)	エネルギー消費原単位値 (原 油換算値) の削減割合	エネルギー消費原単位値 (原 油換算値) の削減割合	基準値：0.04034kl/m ³ 対象期間：H28～R2の 平均	目標値：基準値以上 対象期間：R9 (単年度)
中期目標 (13) 公的資金のほか、 寄付金や産 業界からの資金 等の受入れを進 めるとともに、 適切なリスク管 理のもとでの効 率的な資産運用 や、保有資産の 積極的な活用、 研究成果の活用 促進のための出 資等を通じて、 財源の多元化を 進め、安定的な 財務基盤の確立	中期計画 (13)-1 安定的な財務基盤の構築によ る教育研究活動等の充実・強 化を目指し、補助金や共同研 究、基金などの外部資金の獲 得に関する新たな取組を組織 として推進し、多様な財源の 獲得と有用な活用を実現す る。	(13)-1-A 外部資金の獲得に関する新たな 取組件数：2件以上 (第4期の 合計)	産学官連携による共同研究強 化のためのガイドライン【追 補版】を踏まえた、外部資金 の獲得に関する新たな取組	基準値：- 対象期間：-	目標値：2件以上 対象期間：R4～R9の合 計	研究推進課
	中期計画 (13)-2 相手先を福井県、嶺南自治体 等とする共同研究、受託研究 及び受託事業の受入金額：第3期 (9,129千円) より増加 (第4 期の合計) (再掲)	(13)-1-B 相手先を福井県、嶺南自治体 等とする共同研究、受託研究 及び受託事業の受入金額	相手先を福井県、嶺南自治体 等とする共同研究、受託研究 及び受託事業の受入金額	相手先を福井県、嶺南自治体 等とする共同研究、受託研究 及び受託事業の受入金額	基準値：9,129千円 対象期間：H28～R2の 合計	目標値：基準値以上 対象期間：R4～R9の合 計
中期目標 (14) 外部の意見を取り 入れつつ、客 観的なデータに 基づいて、自己 点検・評価の結 果を可視化する とともに、それ を用いたエビデ ンスベースの法 人経営を実現す る。併せて、経 営方針や計画、 その進捗状況、 自己点検・評価 の結果等に留ま らず、教育研究 の成果と社会発 展への貢献等 を含めて、ステ ークホルダーに 積極的に情報発 信を行うととも に、双方向の対 話を通じて法人 経営に対する理 解・支持を獲得 する。	中期計画 (14)-1 エビデンスベースによる法人 運営を目指し、IR機能を活用 した客観的なデータに基づく 自己点検・評価を実施し、教 育研究活動等の質の改善状況 をステークホルダーに分かり やすく発信していく。	(14)-1-A 教育研究活動等に係るデータ分 析による自己点検・評価の実 施・開示 (第4期の毎年度)	教育研究活動等に係るデータ 分析による自己点検・評価	基準値：- 対象期間：-	目標値：実施・開示 対象期間：R4～R9の毎 年年度	経営戦略課
	中期計画 (14)-2 ステークホルダーの本法人経 営に対する更なる支持を目指 し、ステークホルダー別にそ れぞれの特性を考慮した情報 配信や対話 (意見交換) の機 会を設け、ステークホルダー の意見を反映した大学運営を 行う。	(14)-2-A connect Ufukui (※) の登録者 数：2,000人以上 (第4期の最 終年度) ※ ニュースソースに応じてス テークホルダー別に一括配信 を行う本学独自に開発したメ ール配信システム。	connect Ufukui の登録者数	connect Ufukui の登録者数	基準値：- 対象期間：-	目標値：2,000人以上 対象期間：R9 (単年度)
		(14)-2-B 令和9年度までにconnect Ufukui等で配信したニュース に対するステークホルダーの 関心度を測定する仕組みを 構築	connect Ufukui等で配信した ニュースに対するステークホ ルダーの関心度を測定する仕 組み	基準値：- 対象期間：-	目標値：構築 対象期間：R4～R9の期 間中	広報課

		(14)-2-C 戦略的に分類した各ステークホルダー区分との意見交換会等を実施（第4期の隔年度） 経営戦略課	戦略的に分類した各ステークホルダー区分との意見交換会等	基準値:- 対象期間:-	目標値:実施 対象期間:R4～R9の隔年度	経営戦略課
中期目標(15) AI・RPA (Robotic Process Automation) をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。	中期計画(15)-1 業務全般の質の確保と機能の高度化を目指し、デジタル技術の活用に適した対象業務の洗い出しを行うとともに、運用環境の整備や開発人材の育成を推進し、AI・RPAなどデジタル技術の活用による業務運営体制を整備する。 総務課	(15)-1-A 事務局職員のデジタル技術の活用に関する研修会等への参加者数：延べ60名程度（第4期の合計） 人事労務課	事務局職員のデジタル技術の活用に関する研修会等への参加者数	基準値:- 対象期間:-	目標値:延べ60名程度 対象期間:R4～R9の合計	人事労務課
		(15)-1-B AI・RPAなどデジタル技術の導入件数：第3期（1件）の3倍以上（第4期の合計） 総務課	AI・RPAなどデジタル技術の導入件数	基準値:1件 対象期間:H28～R3の合計	目標値:基準値の3倍以上(3件以上) 対象期間:R4～R9の合計	総務課
	中期計画(15)-2	(15)-2-A 研修会の開催数：第3期（4回）の3倍以上（第4期の合計） 情報企画課	情報セキュリティの質の維持・向上に資する研修	基準値:4回 対象期間:H28～R3の合計	目標値:基準値の3倍以上(12回以上) 対象期間:R4～R9の合計	情報企画課

※グレー網掛けは、定性的な指標。